

## 血液内科ってどんなところ？

診療部長 兼 血液内科主任部長 清水 義文

大阪大学卒業後、同大学第三内科や西宮市立中央病院で研修。大阪大学医学部大学院、東京大学医科学研究所附属病院勤務を経て米国へ留学。血液内科の診療と、リンパ球の分化や造血幹細胞の研究を行う。帰国後、日生病院、市立東大阪医療センターで血液内科と一般内科の診療を担当し、平成21(2009)年に当院に赴任。日本血液学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医



### Q1. 血液の病気について教えてください

血液の細胞には、白血球、赤血球、血小板の3つがあり、古くなった細胞は新しく作られた細胞と絶えず入れ替わって一定の数を維持しています。この3種類の細胞は造血幹細胞という大本の細胞からいくつもの段階を経て作られます。この仕組みに異常をきたした場合や、白血球の種類の一つであるリンパ球の異常により起こるのが血液の病気です。血液のがんには、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の3つがあります。また、がん以外の病気として、貧血(赤血球減少)、血小板減少症などがあります。

血液内科ではそういった血液の病気の診断と治療を行っています。

### Q2 血液の病気を調べるために どのような検査が必要ですか

血液検査が主ですが、骨髄検査が必要になる場合があります。骨髄は、骨の中にある柔らかい組織で、血液の細胞を作る場所と言われており、そこに異常がないかを調べます。検査のやり方は、うつ伏せになって、腰の骨の出っ張ったところに局所麻酔をして針を刺し、骨髄液を少量採取します。外来でできる検査で、検査後の安静時間も含めて1時間以内で終了します。

その他に、リンパ球のがんである悪性リンパ腫の診断には、腫れているリンパ節を切除して調べるリンパ節生検を行います。この検査は、形成外科、外科、耳鼻咽喉科などで行っており、短期入院が必要

な場合があります。

### Q3 治療法を教えてください

急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫については、抗がん剤を使った治療となります。これら血液のがんは、抗がん剤がよく効くタイプのがんとされています。実際、血液のがんで一番多い悪性リンパ腫(びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫)は、約6割の患者さんが抗がん剤治療だけで治ります。多発性骨髄腫については、新薬が続々と登場しており、髪の毛が抜けることなく治療が可能で、長期生存を目指せるようになってきています。

一部の貧血や血小板減少については、ステロイドをはじめとした薬物療法を行います。輸血が必要になる場合もあります。

### Q4 最後に一言お願いします

白血球、赤血球、血小板の数に異常がある場合や、リンパ節が腫れている場合は、かかりつけ医にご相談のうえ、紹介状を持って当院へお越しください。

